

2024. 11. 25

空気がひんやり冷たい季節になりました。今年は実なりのよかったドングリが至る所に落ち、中でもコナラはほかのドングリに先駆けて秋のうちに地中に根を伸ばしています。クヌギやコナラの葉も舞い散り、カサカサ落ち葉の感触を楽しみながらの落ち葉掻き、里山の紅葉もだいぶ進んできました。



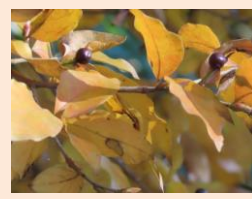
カラスウリ



サルトリイバラ



ガマズミ



ヤマコウバシ



コナラ



トキリマメ



ゴズイ

晩秋の里山 色とりどりの 木の実・木の葉



ムラサキシキブ



クヌギ



ヘクソカズラ



ガマ



イロハモミジ



カマツカ



サンショウ



ヤクシソウ

今年最後の花 ひっそり 咲いています



リンドウ



リュウノウギク



ノハラアザミ



カントウヨメナ

<季節メモ> 里山の紅葉のいいな！

9月から11月まで気温が高めだった今年は紅葉が遅れているようです。葉の色の変化は同じ木でも年によって差があります。それは昼と夜の気温差や日照時間、湿度など、さまざまな要因が関係しているからです。このほかに夏の間の日照や雨、台風などによる傷みなども関係しています。いずれにせよ、樹木が季節の移ろいを察知し、葉の色を変え、やがて葉を落として冬を越すという営みには、自然の不思議さを感じさせられます。葉が赤くなる木は、イロハモミジ、ハゼノキ、ニシキギなど。木は寒さから身を守るために、葉を落とす準備を始めると、葉のつけ根に離層（枝と葉の間にできる組織）が作られ、葉にある糖が枝に移動できなくなり、葉に留まって糖から赤い色素がつくられ、それが目立つようになるのです。葉が黄色くなる樹木には、イチョウ、エノキ、カツラなど。普段、葉が緑色に見えるのは葉の細胞の中の葉緑体に緑色の色素である葉緑素が多くふくまれているからで、秋になると葉緑素がこわれ、葉にもともとあった黄色の色素が目立つようになるのです。じっくり見ると里山の紅葉もいいものです。

写真・編集：晝間